

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：農林水産費 項：林業費 目：森林整備費

事業名 森林整備事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

林政部 森林経営課 整備係 電話番号：058-272-1111(内4384)

E-mail : c11515@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 2,174,171 千円 (前年度予算額： 2,170,256 千円)

<財源内訳>

| 区分 | 事業費 | 財 源 内 訳 | | | | | | |
|-----|-----------|-----------|---------|-----------|---------|-------|-------|---------|
| | | 国 庫 支出金 | 分担金 負担金 | 使 用 料 手数料 | 財 産 収 入 | 寄 附 金 | そ の 他 | 県 債 |
| 前年度 | 2,170,256 | 1,553,863 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 要求額 | 2,174,171 | 1,568,581 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 605,590 |
| 決定額 | | | | | | | | |

2 要求内容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

第4期森林づくり基本計画において、5か年間で人工造林3,100ha、間伐48,000haを目指している。森林の公益的機能の高度発揮、災害に強い森林づくりの推進、木材の安定的な供給による林業・木材関連産業の振興を目指している。

同計画の目標達成に向けて本事業では国庫補助制度を活用して森林整備事業を実施する。また、令和6年度の木材生産量624千m³の達成を目指して、木材を安定的に供給する必要がある。

R5.5.30、国において花粉症対策の全体像が決定され、花粉発生源対策としてスギ人工林の伐採・植替えを促進する必要がある。

(2) 事業内容

(ア) 事業目的・事業効果

森林の持つ公益的機能の高度発揮、災害に強い森林づくりの推進、循環型森林づくりの推進による林業・木材関連産業の活性化を図るため、森林所有者等が実施する森林施業に対して助成する。

花粉発生源対策としてスギ人工林の伐採、植替えを図るため、森林所有者等が実施する森林施業に対して助成する。

(イ) 内容

補助対象：木材資源育成に不可欠な人工造林、保育（下刈）等、間伐、森林作業道整備

花粉発生源となっている林分で行う伐採から造材までの一貫作業

（伐採、集材搬出、機械地拵え、植栽）、人工造林、下刈、付帯施設整備、森林作業道整備

(3) 県負担・補助率の考え方

補助率 4/10 (うち国3/10、県1/10)

分収林は5/10 (うち国3/10、県2/10)

国補助金交付要綱による

(4) 類似事業の有無

有

林業循環成長対策森林整備事業：主に本事業費で対応できない等の箇所で実施

環境保全林整備事業：奥地や溪流沿いの林業経営に不適な地域の森林整備を実施

3 事業費の積算 内訳

| 事業内容 | 金額 | 事業内容の詳細 |
|------|-----------|----------------------|
| 補助金 | 2,139,171 | 間伐等の森林整備や森林作業道整備への助成 |
| その他 | 35,000 | 旅費等 |
| 合計 | 2,174,171 | |

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

第4期森林づくり基本計画に定めた人工造林3,100ha、間伐面積48,000haの達成に向けて、主に木材生産林では森林整備事業（公共）、非公共事業により、また環境保全林においては環境保全林整備事業により森林整備を実施する。

(2) 国・他県の状況

ほぼ全ての都道府県において同様の事業を実施している。

(3) 後年度の財政負担

計画的な森林整備のため、適正規模の財政負担が継続的に必要である。

(4) 事業主体及びその妥当性

(1) 事業主体

市町村、森林組合、生産森林組合、森林整備法人、森林所有者等

(2) 妥当性

国補助金交付要綱による

事 業 評 價 調 書 (県単独補助金除く)

| |
|--|
| <input type="checkbox"/> 新規要求事業 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 繼続要求事業 |

1 事業の目標と成果

(事業目標)

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

第4期森林づくり基本計画に基づき、森林整備について5か年間で人工造林3,100ha、間伐48,000haを実施する。

(目標の達成度を示す指標と実績)

| 指標名 | 事業開始前 (R2) | R6年度 実績 | R7年度 目標 | R8年度 目標 | 終期目標 (R8) | 達成率 |
|---------|---------------|------------|------------|------------|--------------|-----|
| ①人工造林面積 | 185 | 283 | 800 | 1,000 | 1,000 | 28% |
| ②間伐面積 | 6,871 | 5,241 | 9,600 | 9,600 | 9,600 | 55% |

○指標を設定することができない場合の理由

(これまでの取組内容と成果)

| | |
|-------------------|--|
| 令和 4 年 度 | 森林整備事業では人工造林を216ha、間伐を6,153ha実施した。 575千m ³ の木材が搬出された。 |
| | 指標① 目標：1,000ha 実績：216ha 達成率：22% 指標② 目標：9,600ha 実績：6,153ha 達成率：64% |
| 令和 5 年 度 | 森林整備事業では人工造林を266ha、間伐を5,861ha実施した。 599千m ³ の木材が搬出された。 |
| | 指標① 目標：1,000ha 実績：266ha 達成率：27% 指標② 目標：9,600ha 実績：5,861ha 達成率：61% |
| 令和 6 年 度 | 森林整備事業では人工造林を283ha、間伐を5,861ha実施した。 599千m ³ の木材が搬出された。 |
| | 指標① 目標：1,000ha 実績：283ha 達成率：28% 指標② 目標：9,600ha 実績：5,241ha 達成率：55% |

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

| | |
|---|--|
| (評価) 2 | 木材生産量の山地災害防止機能等の維持増進を図るために森林整備事業は不可欠であり、事業実施の必要性は高い。 |
| ・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) | |
| 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない | |
| (評価) 2 | 事業実績は第4期森林づくり基本計画の終期目標値には及ばないが、人工造林面積は前年度より1%増加しており、事業成果はあがっている。 |
| ・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) | |
| 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている | |
| (評価) 2 | 標準単価を用いて補助金額を算出するほか、岐阜森林クラウドの導入により事務の効率化が図られている。 事後申請方式を採用することで適期の施業にも対応できる仕組みとなっている。 |

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項

人工造林や間伐を推進するためには、補助条件である森林経営計画の策定を進める必要があるため、県としても積極的に支援を行う必要がある。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

第4期岐阜県森林づくり基本計画の目標達成に向けて、人工造林、間伐等の森林整備を進める。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

| | |
|----------------------------|-------|
| 組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課 | 【○○課】 |
| 組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など | |